

# つくしだより



令和5年1月号

令和5年

新年のご挨拶

都連副会長 植松 和光

新年あけまして

おめでとごございます

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

皆様はどんな初夢を見たでしょうか。私は、息子と一緒に新幹線に乗っていて、どこかに旅行に出かけているようでした。車窓から眺める景色に見とれている息子の姿をみても嬉しかったです。夢はそこで終わっていました。息子が小さい時には夏休みに良く海や山に旅行に出かけました。しかし、息子が病気になることから一度も行ったことがありません。私の人生の中で、当時一番心にあったのは「息子の病氣」との向き合い方でした。少しでも日常の生活が豊かになるようにどうしたらいいのかということでした。あれから、二十数年、夢を実現できるというなと思います。

さて、国連が日本の障害者差別を巡り初の審査を行い、国連の障害者権利委員会が昨年9月9日、日本政府に対して精神科の強制入院を可能にしている法律の廃止を求めました。

その内容は、障害に基づくあらゆる差別の禁止などを定めた「障害者権利条約」(日本は2014年に批准)について、障害者の精神科病院への強制入院や、分離された特別な教育(特別支援教育)をやめるよう要請。日本の現状は欧米諸国と比較すると50年以上遅れているとよく言われます。

日本の精神科病院の入院患者のうち1年以上の長期入院者数は165、971名(2019年度精神保健福祉資料)入院患者全体の60%を占め、如何に長期入院が多いかわかります。欧米では、平均在院日数が18日と言われています。

また、身体拘束も2003年の5、109名から2016年の10、933名とすさまじい勢いで増加しています。なんで、こんなに日本の精神医療は異常なのでしょう。日本の精神科病院の8割、精神病床の9割は民間病院です。国立・県立病院中心の先進諸国とは全く正反対です。

民間経営であれば、いかに経営を安定させるために医療収益を上げるかを追求し、低医療費の中では、入院ベッドの利用率を高めることが

主眼となり、必然的に入院患者を安定的に確保する土壌が広がることとなります。

私たちは、新型コロナウイルスの感染拡大で、精神科病院での入院患者の人として扱わない対応に驚きもし、強い憤りを感じました。こんなことを絶対させてはいけません。

私たちは、毎年東京都に対して要望を行っていますが、特に重視しているのが、市民への啓発活動です。特に、学校教育の中で、精神疾患を理解するための学習教育です。高校では、今年から新学習指導要領の保健体育授業で学習することになりました。しかし、精神疾患になる発症年齢が一番多いのが中学二年生です。少なくとも、小学校高学年から速やかに実施するようにと求めています。小・中・高の時に精神疾患について学んだら、日本の精神医療も大きく変わると思います。

今年は、精神医療について皆さんと一緒に考え変革をさせる年にしたいと思います。

本年も皆様どうぞよろしくお願ひいたします。  
今年一年が良い年でありますように。

## 祝「小平市けやきの会設立50周年」

おめでと〜ございます

都連理事 安藤 万寿代

「小平市けやきの会」は1972年(昭和47年)に設立され、2022年11月5日(土)午後2時から会場「ルネこだいら」で「小平市けやきの会設立50周年」の祝賀会が多く参加者で開催され、東京つくし会から眞壁会長・安藤が出席しました。

### 第一部 式典

まずは会長小嶋氏からのご挨拶から始まり、「けやきの会」は業務連(小平地域保健福祉事務連絡会)に促されて設立されたこと、家族会には患者家族の果たす役割が重要なこと、家族自らが共通の悩み・問題を解決するために家族会を作る必要性をあらためて確認しあつた事を起点として、家族会育成の準備期間を経て設立されたことを話されました。現在の家族会活動は①家族相互の親睦と相談活動②精神衛生に関し地域社会に正しい理解を得るための啓発活動③関係団体との連携、行政機関への要望などをしていますと話されました。

来賓のご挨拶では小平市長小林洋子氏や多くの方のご挨拶の皆様のご挨拶があり、東京つくし会では眞壁会長が致しました。

### 第二部 「やすらぎコンサート」

・ソプラノ歌手 星野智子さん  
・ピアノ伴奏 沼館千佳子さん

・演奏曲とお話 「アベマリア」「夢」「ラルゴ」「愛の挨拶(ピアノソロ)」「いのちの歌」「翼をください」「早春賦」

お話では星野さんご自身が双極性障害を発症致し、病を持ちながらも良い歌を歌うことを目的に声楽を勉強中で、地域の病院や施設などに癒しを届ける活動をしていまして話されました。曲目も大変素晴らしく、50周年記念にふさわしい演奏でした。会の益々のご発展をお祈りします。

## 祝「あおば福祉会設立40周年記念式典」

おめでと〜ございます

都連理事 安藤 万寿代

特定非営利活動法人あおば福祉会は1982年杉並家族会による「杉並共同作業の会」が活動を開始され、今年で40周年を迎え2022年11月29日(火)午後1時から杉並公会堂で、記念式典が開催されました。

### 第一部 記念式典

主催者挨拶であおば福祉会理事長島本氏が「あおば福祉会は当初、杉並家族会の有志中心に活動が始まり、今日までに継続しているのは、皆様のお陰です」と話されました。続いて「来賓の杉並区長岸本氏・杉

並区議会議長脇坂氏からご挨拶がありました。

次に「あおば福祉会四十年の歩み」をビデオで作業所の紹介と、発表者田中氏を始め7人の当事者の方にあおば福祉会の出会いとこれからのお話をお聞きしました。十数年通われている方もおられ、あおば福祉会との関わりの深さを認識致しました。

### 第二部 記念講演会

「生きる力と私とテレビのナイショ話」  
・講師 笠井信輔氏(元フジテレビアナウンサー・現在フリーで活躍)

フジテレビの在籍中は「とくダネ」で長く出演されたお話がありました。フジテレビを退職した直後、血液のがん「悪性リンパ腫」のステージ4と診断されましたが、四ヶ月半の闘病生活で抗がん剤治療の結果「完全寛解」した様子を話されました。現在はテレビ・ラジオ・講演・がん知識の普及活動をしています。2020年11月に人生の困難を乗り越えるエッセイ「生きる力」引き算の縁と足し算の縁」を出版されました。

東京つくし会から植松副会長と安藤が記念式典と記念講演会に出席致し、一緒に喜びを共有しました。会の益々のご発展をお祈りします。

## 「オリーブ会」訪問

都連理事 江頭 由香

11月12日(土)オリーブ会を訪問しました。オリーブ会は、駅近くの北千住旭クリニックで平山所長のもとに発足し活動されています。聖書の「ノアの箱舟」に出てくるオリーブの若葉が洪水後の希望のしるしだったことにちなんだ名前だそうです。

今回は初参加2名の方を含め12名の方が参加され、2時間じっくりお話することができました。

今回の訪問は、私がつくし日より3月号に寄稿した弟との同居生活紹介がきっかけでした。きょうだいしらい会会報で紹介されていた高森信子先生の「お困りごと解決法」を参考に、共通の趣味や長年の近所づきあいのお陰で、どうにか同居生活が続けられていることを説明しました。

・当事者には家庭内での立場づくりが必要。当事者をほめる、認めることが重要。  
↓ 好きな音楽の分野が同じで、知識も豊富な弟の音楽情報は私にとって大切です。また、CDや楽器等の中古品を廉価で入手してくれることもありがたいです。

・ストレス発散が下手で大声を出す人には、近所の理解を得るなどの対策が必要。  
↓ 長年の近所づきあいの中で状況の変化

がわかったようで、お気遣いの言葉もいただけます。

本田さんからは、会の皆さんの心配ごとである「親なきあと」について、渋谷太陽の会での渡部伸先生講演会より、誰か(ご近所、役所、病院等)につながっていれば、いざというときに当事者を守れるという説明がありました。

病院家族会の課題としては、コロナの影響で病院での活動に支障があるというお話がありました。病院家族会共通の課題ですので、2月に予定している病院家族会で他家族会のお話を伺いたいと思いました。

### 訪問しました

昭島市「アットホーム歩・歩」

副会長 本田 道子

秋が深まってきた11月24日、木曜日の午後、昭島市の保健福祉センター「あいぼっく」へ出かけました。昭島市の家族会「アットホーム歩・歩」での例会に参加です。会場は机を取り払い椅子で円形に座るスタイルで簡単な自己紹介からスタートしました。

家族の入院生活が何年もと長引いている方がいらして心が痛みます。そして今回は支援をしているプロの方が

たくさん参加されていて心強く感じました。それも市役所の生活福祉課の保健師さんをはじめとして、市社協の職員・計画相談の事業所職員・就労支援のスタッフ、グループホームと実に多彩な方々でした。会長の池田さんの日頃の地道なネットワーク作りに頭が下がります。

この日は「親亡き後の子供たちの生活」がテーマで生活保護を含めて話をしてほしい、と依頼されておりました。

私達親にとっては共通のテーマです。この家族会でも専門の方から知識を得ておこうとしています。

私自身の考え方としては、少なくとも病院や関係機関のどこか一か所につながってさえいれば大丈夫、なんとかかなる。

なんともならないのは、本人自身が自分のことを語る能力、スキルをもっていないことなのではないか、と。つまり自分が今困っていることを、他人に伝え理解してもらうこと、がもっとも大切なことのように思う、というところから、参加者それぞれの思いを語りあっているうちに退室の時間となってしまうました。支援するスタッフの皆さんに親達の思いが伝わるという思い、と思いがら夕暮れの街を歩き出しました。

## 家族会交流コーナー

このコーナーは、家族会間やつくし会との情報交流の場です。載せたい情報を毎月 20 日までに、つくし会事務所にメール (tsukushikai@chorus.ocn.ne.jp) または FAX (03-3304-1108) までお寄せください。

### 【知っ得情報】 39 回 障害者のための「ふれあいコンサート」

開催日時 2023 年 2 月 26 日(日) 開場 13 時 開演 14 時

場 所 文京シビックホール 大ホール

演 目 1 部 TSUKEN スペシャルステージ Wヴァイオリンピアニの 3 人組アンサンブルユニット  
2 部 都響シンフォニック・ステージ 演目 スメタナ：交響詩モルダウ他

対 象 者 都内在住者（障害がある人優先） 申込締切 1 月 20 日まで

申込方法 葉書 〒160-0004 新宿区四谷 1-19 アーバン四谷ビル 4 階 日本チャリティ協会  
FAX 03-3359-7964 当日必着 葉書は当日消印有効

記入内容 代表者の氏名（ふりがな）住所 電話番号 参加人数（障害者数 障害種別）

問合せ先 日本チャリティ協会 03-3341-0803



### ☆ 賛助会費 ☆

石川 純子様 2000 円  
ありがとうございます。

### ☆ 講演会のお知らせ ☆

○「双極性障害 早い発見を」

日時 2 月 18 日(土)

講師 精神科医・大泉病院社会医療部長

山澤 涼子氏

会場 新宿区立障害者福祉センター

主催 新宿フレンズ ☎080-8082-0308

東京つくし会事務所移転のお知らせ  
本会は左記住所に移転することになりました。「迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。」

移転日 2023 年 1 月 25 日

新住所

〒182-0024

東京都調布市布田 1-26-12

ダイヤパレス調布 220 号

新電話番号

○事務所 TEL & FAX 042-453-7534

開設時間 月・火・木・金 10 時～15 時

○電話相談 毎週水曜日 11 時～16 時

TEL 042-457-8979

## 編集後記

今年最後の話題は、国連ジュネーブ本部での障害者権利委員による日本政府報告書に関する審査です。条約に含まれる障害者の人権モデルとの国内法及び政策の調和の欠如他、差別的な法的制限について文章にて指摘された。締結国への勧告としては、津久井やまゆり園の事例を検討すること、精神科病院で死亡した事例の原因や状況について徹底的かつ独立した調査を実施すること。勧告がなされた不当な扱いをする法的条項を廃止すること、条約の下での人権と義務に基づいていることを確認すること。障害者の処遇の防止と報告の効果的な独立した監視機構を確立すること。精神科病院における残酷、非人道的または品位を傷つける扱いを報告するための利用しやすいメカニズムを設置し、被害者のための効果的救済を確立し、加害者の追訴とし処罰を確保すること。無期限の入院をやめさせ、地域社会で必要な精神保健上の支援とともに、自立した生活を営むことができるようにすること。障害者が自分の生活に対して選択とコントロールを行使できるようにすること。パリ原則が日本の全分野にわたるようになり勧告された。障害者の人権については国連はじめ世界の方がはるかに進んでいる。

都連理事 大山 竹彦

つくしだよりは赤い羽根共同基金の配分を受けて発行しています。